海底ケーブル障害位置測定器

1972年（昭和47）に、これまで測定が困難とされていた海底ケーブルの断線開放障害に有効に使える静電容量測定方式の障害位置測定器を開発・実用化した。この測定器は、10,000kmまでの開放障害点を1%以内の精度で測定ができる。陸揚局での迅速正確な障害位置の測定に大きく寄与した。

出典：KDD 社史